

○ 放課後学習サポート事業の成果について

【実施経過】

令和元年度 1～2年生を対象として、学校において速読ソフトを利用した学習を実施。※令和元年8月より開始

令和2年度 対象児童を1～3年生へ拡充して、学校において速読ソフトを利用した学習を実施。

令和3年度 対象児童を1～4年生へ拡充して、学校において速読ソフトを利用した学習を実施。

令和4年度 対象児童を1～5年生へ拡充して、1～3年生は学校において速読ソフトを利用した学習を実施し、4～5年生はタブレットを自宅へ持ち帰り、デジタルドリルを活用した学習を実施。

令和5年度 対象児童を1～6年生へ拡充して、1～3年生は学校において速読ソフトを利用した学習を実施し、4～6年生はタブレットを自宅へ持ち帰り、デジタルドリルを活用した学習を実施。

令和6年度 対象児童を1～7（中学1）年生へ拡充して、1～3年生は学校において速読ソフトを利用した学習を実施し、4～6年生はタブレットを自宅へ持ち帰り、デジタルドリルを活用した学習を実施し、7（中学1）年生は、映像授業を利用した学習を実施。

(1) 放課後学習サポート参加率（令和7年3月現在）

（単位：人、％）

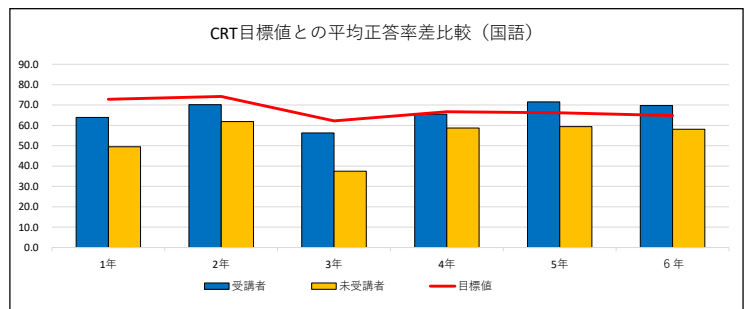
学年	1	2	3	4	5	6	7(中1)年	1～3	4～6	7(中1)年	全体
参加者数	29/37	20/33	15/28	28/40	16/34	9/31	30/46	64/98	53/105	30/46	147/249
参加率	78.4	60.6	53.6	70.0	47.1	29.0	65.2	65.3	50.5	65.2	59.0

※算出方法：①1～3年生 令和7年3月時点において、速読システム利用人数で算出。
 ②4～6年生 継続的にリアテンドントでの学習を行っている人数で算出。
 ③7(中学1年生) 令和7年3月時点において、映像授業配信システム利用人数で算出。

(2) CRT目標値との平均正答率差比較（令和6年度実施分・前期課程、小学校）

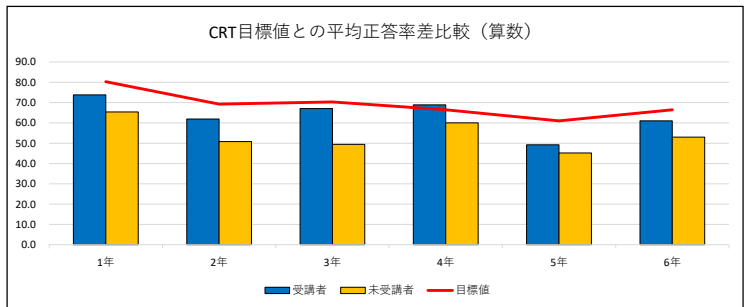
① 国語（単位：％）

学年	目標値	平均正答率		目標値の達成率	
		受講者	未受講者	受講者	未受講者
1年	72.8	63.9	49.5	87.8	68.0
2年	74.2	70.2	61.9	94.6	83.4
3年	62.2	56.3	37.5	90.5	60.3
4年	66.7	65.5	58.7	98.2	88.0
5年	66.2	71.5	59.4	108.0	89.7
6年	64.8	69.7	58.1	107.6	89.7
平均	67.8	66.2	54.2	97.8	79.9



② 算数（単位：％）

学年	目標値	平均正答率		目標値の達成率	
		受講者	未受講者	受講者	未受講者
1年	80.3	73.8	65.4	91.9	81.4
2年	69.3	61.9	50.8	89.3	73.3
3年	70.3	67.1	49.4	95.4	70.3
4年	66.5	68.9	60.0	103.6	90.2
5年	61.0	49.2	45.2	80.7	74.1
6年	66.5	61.0	53.0	91.7	79.7
平均	69.0	63.7	54.0	92.1	78.2



※ CRT（標準学力調査）とは：学習指導要領に示される基礎的・基本的内容の到達状況を把握することができる学力検査であり、検査結果の分析や経年変化から課題等を把握し、個々の児童生徒に応じた学習指導の改善のために活用している。

※ 統計上の処理として、両教科とも極端に正答率の高い児童及び低い児童を除外し平均値を算出した。

分析：令和6年度実施のCRTでは、国語算数共に、全学年において放課後学習サポートを受講している児童の方が平均正答率が高い結果となっており、国語では5、6年、算数では4年生で目標値を超える結果であった。

(3) CRT目標値との平均正答率差比較（令和6年度実施分・後期課程、中学校）

① 数学（単位：％）

学年	目標値	平均正答率		目標値の達成率	
		受講者	未受講者	受講者	未受講者
7(中1)年	55.2	55.4	33.8	100.4	61.2

② 英語（単位：％）

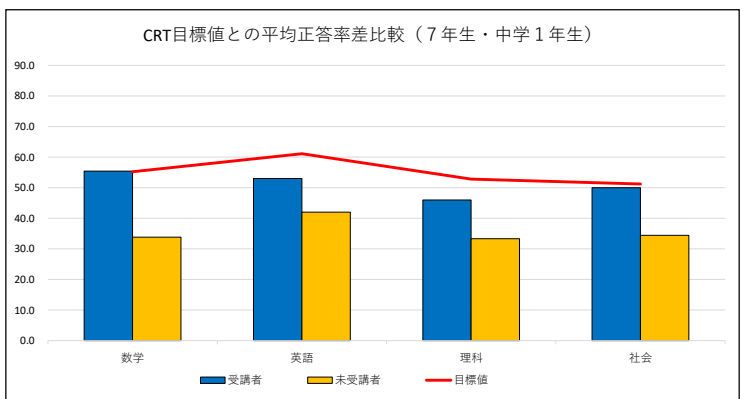
学年	目標値	平均正答率		目標値の達成率	
		受講者	未受講者	受講者	未受講者
7(中1)年	61.1	53.0	42.0	86.7	68.7

③ 理科（単位：％）

学年	目標値	平均正答率		目標値の達成率	
		受講者	未受講者	受講者	未受講者
7(中1)年	52.8	46.0	33.3	87.1	63.1

④ 社会（単位：％）

学年	目標値	平均正答率		目標値の達成率	
		受講者	未受講者	受講者	未受講者
7(中1)年	51.2	50.0	34.4	97.7	67.2



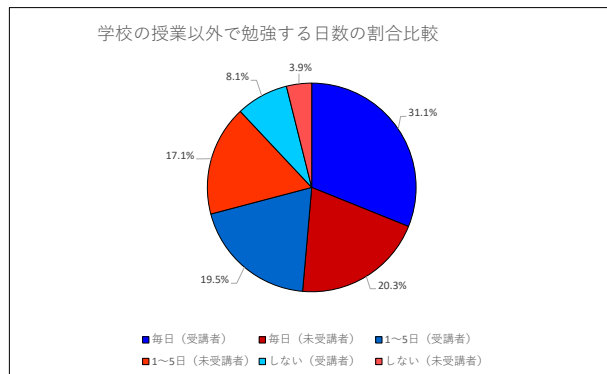
※ 統計上の処理として、各教科とも極端に正答率の高い児童及び低い児童を除外し平均値を算出した。

分析：令和6年度実施のCRTでは、各教科共に、放課後学習サポートを受講している生徒の方が平均正答率が高い結果となっており、**数学**では、目標値を達成することができた。

(4) 学校の授業以外での勉強日数の割合比較（令和6年度実施分）

（単位：％）

学年	①毎日勉強する		②1～5日勉強する		③全く勉強しない	
	受講者	未受講者	受講者	未受講者	受講者	未受講者
1年	71.4	11.4	5.7	11.4	0.0	0.0
2年	24.1	17.2	34.5	13.8	6.9	3.4
3年	20.0	20.0	12.0	20.0	24.0	4.0
4年	36.8	18.4	15.8	7.9	15.8	5.3
5年	22.6	32.3	22.6	19.4	3.2	0.0
6年	13.3	33.3	16.7	26.7	0.0	10.0
7(中1)年	29.5	9.1	29.5	20.5	6.8	4.5
平均	31.1	20.3	19.5	17.1	8.1	3.9
	51.4		36.6		12.0	



※ i-check（総合質問紙調査）とは：各種質問に回答することにより、生活習慣や学習習慣の状況だけでなく、「自己肯定感」や「ソーシャルスキル」などの様々な視点から児童生徒個々の状況を確認するための調査であり、標準学力調査とのクロス集計を行うことにより、学力との相関についても分析している。

分析：令和6年度実施のi-checkの「授業以外の勉強日数」の項目で、「毎日勉強する」あるいは「1～5日勉強する」と回答した割合は、放課後学習サポートを受講している児童の方が未受講者よりいずれも高い結果であった。また、「全く勉強しない」割合は受講・未受講合わせて12.1%であり、約9割の児童が学校の授業以外での学習（家庭学習等）に取り組んでいるという結果であった。